

SDGs 経営に 役立つ ISO14001 (1)



角子 裕司

特集

2015年に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、すでにビジネスの世界での共通言語になりつつあると言われています。当初CSRの観点から社会貢献活動として取り入れられることが多かったSDGsは、その普及とともに市場などのニーズから新たなビジネス機会として積極的に取り組む企業も増えてきています。SDGsへの取組み・実践に、ISO14001を活用する方法、そのメリットについて2回にわたってご紹介いたします。導入検討・活性化のご参考にしていただければ幸いです。(編集部)

1

SDGsとは

近頃、カラフルなドーナツ型バッジを付けた人を見かける機会が増えてきました。このバッジは、SDGs(エスディーゼズ)に取り組む組織の活動表明の証であり、政府や大企業を中心に、広まりつつあります。

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、2015年の国連サミットで決められた、国際社会共通の目標です。このサミットでは、2030年までの長期的開発指針として、持続可能な開発のための2030アジェンダが採択されました。この文書の中核を成す「持続可能な開発目標」をSDGsと呼び、17のゴール(目標)と具体的な169のターゲットや評価指標から構成されています。

17の目標には、21世紀の世界が抱える社会課題が包括的に挙げられています。SDGsに積極的に取

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



り組むことで、①企業イメージの向上、②社会の課題への対応、③生存戦略になる、④新たな事業機会の創出、などが期待できるため、取組企業が年々増加しています。

SDGsの第一歩は、自社の取組とのつながりに気付くことからです。そこから自社の強みをあらためて見直し、価値を認識することで、SDGsと関連付けて、取り入れやすくなります。17の目標すべてを対象にしなければならないというものではありませんので、まず身近なところ、取り組みやすいところから始められる組織も多くあります。

17の目標		1	2
		1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに
3	すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
6	安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを
12	つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう
15	陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう

PDCAサイクル	取組手順	環境省のガイドライン SDGs 活用ガイド	ISO14001:2015 関連要求事項
取組の意思決定 ↓	1: 話し合いと考え方の共有	1) 企業理念の再確認と将来ビジョンの共有	5.1 リーダーシップ及びコミットメント
		2) 経営者の理解と意思決定	5.2 環境方針
		3) 担当者(キーパーソン)の決定とチームの結成	5.3 組織の役割, 責任及び権限
PLAN (取組の着手) ↓	2: 自社の活動内容の棚卸を行い、SDGsと紐付けて説明できるか考える	1) 棚卸の進め方	4.1 組織及びその状況の理解
		2) 事業・活動の環境や地域社会との関係の整理	4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解
		3) SDGsのゴール・ターゲットとの紐付け	(ガイドラインのSDGsとの紐付け早見表参照)
DO (具体的な取組の検討と実施) ↓	3: 何に取り組むか検討し、取組の目的、内容、ゴール、担当部署を決める	1) 取組の動機と目的	6.1 リスク及び機会への取組み
		2) 取組み方	6.2 環境目標及びそれを達成するための計画策定
		3) コストについての考え方	8.1 運用の計画及び管理
CHECK (取組状況の確認と評価) ↓	4: 取組を実施し、その結果を評価する	1) 取組経過の記録	7.1 資源
		2) 取組結果の評価とレポート作成	7.5 文書化した情報
ACTION (取組の見直し)	5: 一連の取組を整理し、外部への発信にも取り組んでみる	1) 外部への発信	9.1 監視, 測定, 分析及び評価
		2) 次の取組への展開	7.4.3 外部コミュニケーション
			10. 改善

※環境省のSDGs活用ガイドは、環境省ホームページからダウンロードできます。(http://www.env.go.jp/policy/sdgs/index.html)

2

ISO14001はSDGs経営の推進ツール

中小企業がSDGsに取り組む際、環境省のガイドラインである「SDGs活用ガイド」が参考になります。このガイドの通りに進めていけばSDGsに取り組めますが、現在ISO14001を運用されている場合、内容に共通点が多いので、既存のEMS(環境マネジメントシステム)に組み込むことで、環境経営からSDGs経営に移行できます。SDGs活用ガイドとISO14001との繋がりや上を示す表の通りです。

3

ISO14001で取り組む5つのヒント

- ①取組の意思決定⇒(5.1,5.2)企業理念の再確認と将来ビジョンを社内で共有し、それらがSDGs(17の目標)と、どの様に繋がっているのか理解を深めることが取組の第一歩。
- ②取組の着手⇒(4.1,4.2)外部の課題やニーズは、関連する17の目標を踏まえて決定する。
ガイドラインの早見表を参考に、自社の製品・サービスやプロセスと関連する17の目標を紐付ける。

③具体的な取組の検討と実施⇒(6.1,6.2)関連する17の目標に対して、影響の大きなリスクや効果の大きな機会を優先した取組計画を立てる。有効性評価に用いるKPIについては、SDGsの169のターゲットや232の評価指標が活用できる。

④取組状況の確認と評価⇒(9.1)取組結果を分析、評価し、トップマネジメントが署名したSDGs経営報告書を作る。

⑤取組の見直し⇒(7.4.3)SDGs経営報告書をホームページ等で外部に発信する。

(10.3)更なる改善・改革を進め、外部発信型三方よしの仕組みを回していく。

(次回:SDGsへの取組段階と取組事例等のご紹介)

筆者紹介

角子 裕司 (かくし ゆうじ)

鉄鋼関連機関にて環境分野に関する調査・分析・品質管理業務等に従事。独立後、各種マネジメントシステムの構築および運用支援サービスを提供、実績多数。現在、中小規模製造業の経営体質強化支援を中心に活動。兵庫県在住。

